

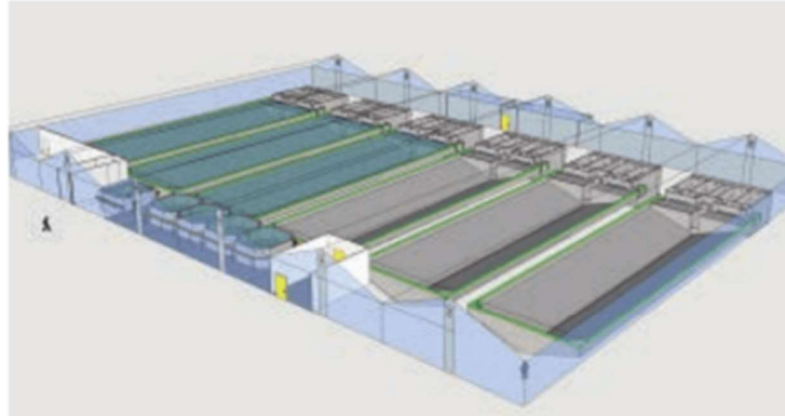
関電出資でバナメイ生産

IMTEが新会社

静岡・磐田市にプラント

新潟県妙高市で完全閉鎖循環式陸上養殖（ISPS）システムでバナメイエビを生産しているIMTEエンジニアリング株式会社（IMTE、富田ゆきし代表）は、関西電力㈱と海幸（かいこう）ゆきのや合同会社を設立し、静岡県磐田市にプラントを建設する計画を26日、発表した。2022年5月から販売し、年間80トンのバナメイ生産を目指す。

年間80トンの生産目指す



磐田市のプラントイメージ

合同会社は大阪市北区に拠点を置き、関西電力の秋田亮氏が代表職務執行者に就く。資本金は1000万円。21年1月に着工、12月には竣工予定。着工時に資本金を10億円に積み増す計画で出資割合は関西電力98%、IMTE2%となる。敷地面積は1万6000平方メートル。幅12メートル、長さ40メートルのプール6レーンを敷設する。磐田市のプラントは妙高市のプラントの3・5倍の水槽容量をもち、年間80トンの生産を計画している。規模が大きくなることで生産コストも引き下げられる。22年1月から生産開始、5月には初出荷の予定で、養殖したバナメイ



は「幸（ゆき）えび」のブランド名で食品加工会社や飲食店などへ販売していく。新設プラントの完成まで妙高市のプラントで相手先ブランドによる生産（OEM）をし、今年11月上旬から販売していく。生産においてはIMTEは育成支援をしていく。稚エビ用の初期育成水槽をプラント内に別に用意しており、妙高で生産するバナメイの稚エビはタイ国のステータス1A施設（国際獣疫事務局（OIE）の基準で清浄性が確認された施設）から輸入しており、生産開始以降一度も魚病などが出たことはない。

「国内外への導入事例を増やし、日本産バナメイの普及を目指したい」と方向性を示している。新潟県妙高市のプラントで養殖したバナメイ

ISPSはIMTEと国際農林水産業研究センター（JIRCAS）が連携して開発した。妙高市で07年9月から生産を開始し「妙高ゆきエビ」のブランド名で販売してきた。海外ではモンゴルへの設置事例もあり、磐田市の3例目。IMTEの富田代表は「国内外への導入事例を増やし、日本産バナメイの普及を目指したい」と方向性を示している。新潟県妙高市のプラントで養殖したバナメイ

を話す。関西電力は19年から3年間の中期経営計画で社会課題解決に向けたエネルギー分野以外の新たな領域への拡大・挑戦の一つとして「農業・食料」を掲げており、海幸ゆきのやは初の農業・食料領域の事業化となる。ISPSは循環・ろ過して常に管理された清潔な水の中でバナメイを飼育するシステム。薬品を一切使用せず、安全で高品質のエビを生産できる。